

水掛平遺跡

平成7・8年度県営圃場整備事業原村
西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書

1997.3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が水掛平遺跡

序

このたび平成7・8年度に発掘調査を実施した水掛平遺跡の報告書を刊行することとなりました。

八ヶ岳西麓の原村では、農業の合理化と生産性の向上を目的とした、圃場整備事業が進められているところであります。

発掘調査は、県営圃場整備事業原村西部地区に先立ち、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から補助金交付をうけた原村教育委員会が実施したものであります。

水掛け平遺跡は、縄文時代と平安時代の資料が発見されている遺物散布地であります、この度の調査でも住居址の発見はなく、破壊された遺跡の範囲は最小限にとどまりました。

今回の調査にあたり、諏訪地方事務所土地改良課の方々の御配慮、長野県教育委員会の御指導ならびに発掘にかかわる多くの皆様の御協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

また、発掘報告書刊行にいたる過程において、お世話をいただいた関係各位にたいして厚くお礼申しあげます。

平成9年3月

原村教育委員会

教育長 大館 宏

例　　言

- 1 本報告は「平成7・8年度県営圃場整備事業原村西部地区」に先立って実施した、長野県諏訪郡原村菖蒲沢に所在する水掛平遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、諏訪地方事務所の委託と、国庫及び県費から発掘調査費補助金交付をうけた原村教育委員会が、平成7年12月5日から8年6月6日にかけて実施した。整理作業は、平成8年12月25日から2月13日まで行なった。
- 3 遺構の実測は平林とし美、記録と写真撮影は平出一治・平林とし美が行なった。
- 4 執筆は、平出と平林が話合いのもとに行なった。
- 5 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保存している。
なお、本調査関係の資料には、52の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、原明芳・武藤雄六の諸氏に御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

目　　次

例　　言 目　　次

I	発掘調査に至る経過	1
II	発掘調査の経過（抄）	1
III	遺跡の位置と環境	3
IV	グリッド設定と調査方法	4
V	土　　層	6
VI	遺構と遺物	6
VII	ま　　と　め	8
引用参考文献		
発掘調査団名簿		
報告書抄録		

I 発掘調査に至る経過

平成5年度から実施されている「県営圃場整備事業原村西部地区」も3年目をむかえ、水排平遺跡の保護については、平成6年6月20日に行なわれた「平成7年度県営圃場整備事業原村西部地区にかかる埋蔵文化財保護協議」で、遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいが、農地整備は将来を考えると必要なことであるし、また、農業者の強い要望もあり「記録保存やむなき」との考えに落ち着き、平成8年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。出席者は長野県教育委員会文化課(平成8年4月から文化財保護課)、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課、原村教育委員会の4者である。

その後も協議を重ねてきたが、遺跡内の農業用水路の改良工事ができなければ、その下流の水田は平成8年度に耕作できないことがわかり、水路部分については平成7年度に緊急発掘調査を実施することとなる。

平成8年度調査については、1月30日に原村役場および現地で行なわれた長野県教育委員会の「平成8年度県営圃場整備事業原村西部地区にかかる埋蔵文化財保護協議」で、調査日程等の確認をおこなっている。

原村教育委員会は、国庫および県費から発掘調査補助金交付をうけ、また、諏訪地方事務所から緊急発掘調査の委託をうけ、平成7年度は12月5日から8日、平成8年度は4月1日から6月6日にわたり緊急発掘調査を実施した。

II 発掘調査の経過(抄)

平成7年12月5日 発掘準備をはじめる。

7日 仮設水路設置のため、旧い水路と一部新設部分を重機で掘り下げる。その深さは水路の底面までとし、新設箇所はローム層の上面までとする。

8日 昨日掘り下げた水路の壁および底面の精査を行う。

8年4月1日 再度発掘準備をはじめる。

5月16日 教育長挨拶の後、機材の搬入、テントの設営を行う。グリッド設定を行い、遺跡の範囲および遺構の埋没状況を確認するためのグリッド発掘と、重機によるトレンチ発掘を並行してはじめる。

20日 引き続きグリッド発掘とトレンチ発掘を行い、トレンチ内の精査をはじめる。

21日 重機による表土剥ぎをはじめる。

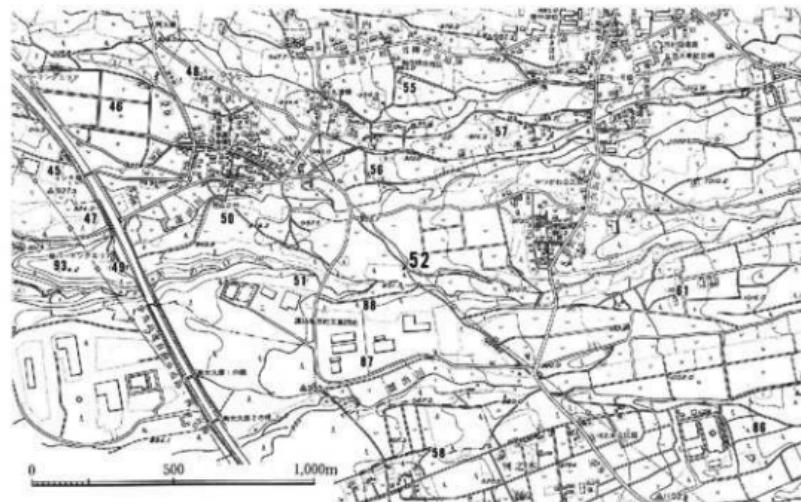
23日 引き続き重機による表土剥ぎを行い、遺構の検出作業をはじめる。

29日 引き続き重機による表土剥ぎ、遺構の検出作業、暗渠排水の精査をはじめる。

表1 水掛平遺跡と付近の遺跡一覧

○は遺物発見 ○は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文				弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中							
45	広原日向	○		○	○				○				昭和58年度発掘調査
46	宿尻	○			○	○			○				平成5・6年度発掘調査
47	ヲシキ		○	○	○				○				昭和51年度発掘調査
48	檜の木				○								昭和53年一部破壊
49	大石	○	○	○	○				○				昭和50・平成4・5年度発掘調査
50	山の神				○	○			○				昭和54年度発掘調査
51	姥ヶ原				○	○							昭和63・平成元年度発掘調査
52	水掛平				○				○				平成7・8年度発掘調査
55	中尾根			○	○	○			○				平成7年度発掘調査
56	家前尾根		○	○	○	○			○				昭和51年一部破壊、平成7年度発掘調査
57	久保地尾根				○								昭和51年一部破壊、平成6・7・8年度発掘調査
58	判之木				○				○				昭和50年消滅
61	番飼場				○								昭和62年度発掘調査
86	判之木尾根				○				○				昭和63・平成元年度発掘調査
87	下原山南		○	○					○				昭和63・平成元年度発掘調査
88	下原山北		○		○	○			○				昭和63・平成元年度発掘調査
93	大石西			○	○				○				平成2年度遺跡確認調査



第1図 水掛平遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)

- 6月3日 重機によるトレンチ発掘とトレンチ内の精査(農道部分)、引き続き遺構の検出作業を行い、小竪穴1を確認する。
- 5日 小竪穴1の精査を行い、機材の片付けと撤収をはじめる。
- 6日 小竪穴1の精査と実測を行い調査を終了する。

III 遺跡の位置と環境

水掛け平遺跡（原村遺跡番号52）は、菖蒲沢区の南方、長野県諏訪郡原村10,024番地付近に位置し、地目は、水田、道路、水路、鉄塔敷きである。標高は960m前後を測る。

このあたりは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根がみられる。その一つである。祓沢川（矢の口川）と菖蒲沢川にはさまれた尾根上から南斜面が遺跡で、南を流れる祓沢川との比高差は10m前後を測る。すでに水田造成で削平された個所は多く、旧い地形を復原することはできないが、比較的急な斜面を有するいわゆり日だまり地形が形成されていたようである（写真①）。また、南斜面には湧水があり、その近くには諏訪神社上社の御射山祭の折り、祓沢川で身を清め御禊いをしたと言われている「祓の宮」が鎮座している（写真③）。

本遺跡の発見はそう古いことではなく、昭和48年から諏訪清陵高校地歴部考古班が「原村の考古学的調査」と題して実施した分布調査の折に、縄文時代中期の土器破片と平安時代の土師器片を採集し「水かけ平遺跡」と呼称したことにはじまる。その後、昭和54年度に長野県教育委員会が実施した「八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査」の折り、遺跡名を「水かけ平」から「水掛け平」に整理し今日に至っている。

付近には第1図と表1に示したように数多い遺跡が点在し、当地方における遺跡密集地帯で、旧石器時代・縄文時代および平安時代の遺跡が数多く埋蔵されている。なお、原村における遺跡の高度限界は1,200m前後のラインである。

これより西は、約1,800m先でホオッサマグナの西縁である糸魚川一静岡構造線の断層崖に沿って北へ流れる宮川によって断ち切られる。



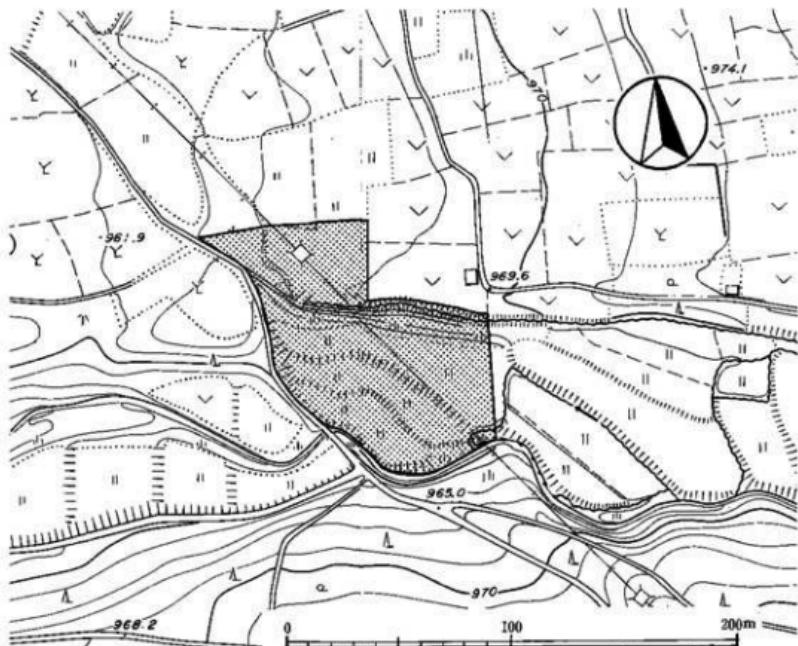
第2図 原村域の地形断面模式図（宮川－木掛平－赤岳ライン）

IV グリッド設定と調査方法

発掘調査の対象は第3図に示したように、平成8年度県営圃場整備事業原村西部地区にかかる遺跡の全域におよんでいる。

発掘に先立ちグリッド設定をおこなったが、遺跡内に鉄塔が建ち高圧線の下がその対象であることから、磁北を測定することはできなかった。したがって地形にならったグリッド設定であるが、その軸を図上で復原したところ東西・南北を示している。

グリッド設定は第4図に示したように、調査地区の東西方向に50mの大地区を設け、西からA区・B区・C区というようにアルファベットを用いて地区割りをした。大地区の中をさらに 2×2 mの小地区（グリッド）に分割し、東西方向は西からA～Yのごとく区分した。南北方向には算用数字をふったが、遺跡の中心と思われるラインを50とし、そのラインを基準に南方向は49・48・47というように南にいくにしたがい小さくなるように、北方向は51・52・53と大きくなるように振分けた。

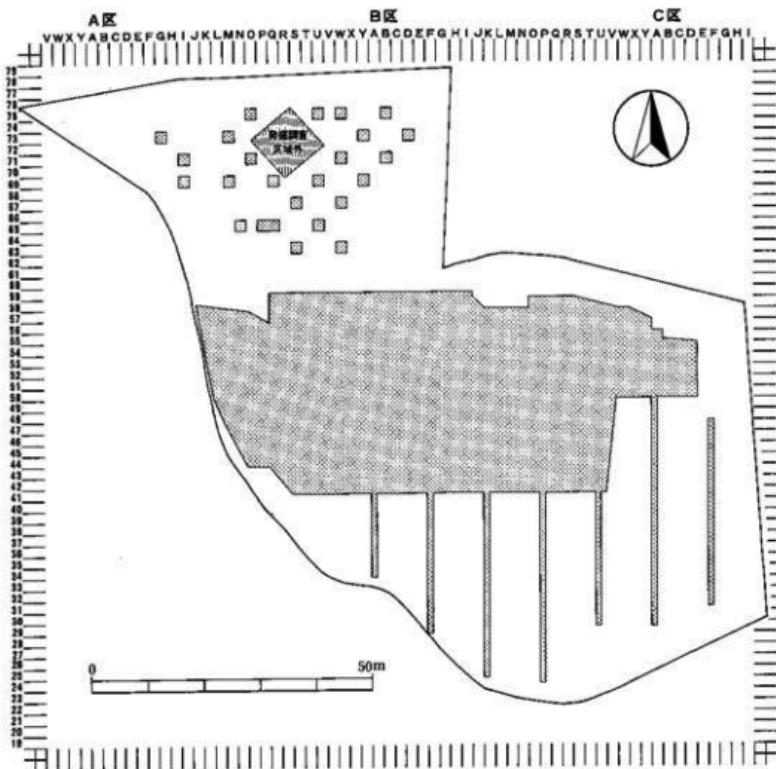


第3図 水掛平遺跡発掘調査区域図・地形図(1:2,500)

準備期間中に数回におよぶ踏査を行ない調査方法を検討したが、遺跡の範囲を明確にできないまま、発掘調査を進める事になったため、まずグリッド発掘と重機を使用したトレント調査を併用し、遺跡の範囲を確定することからはじめた。

トレントは東西方向、南北方向ともグリッドの軸に合わせた。トレントの幅は重機のバケット幅である1.2 ~1.3 mである。その調査は原則として層位別にローム層上面ないしは礫出土面までとし、落ち込みを確認した時点で表土剥ぎをはじめた。しかし、遺構検出作業の結果、確認した落ち込みは全て暗渠排水であり、住居址を検出するまでに至らなかった。

発見した遺物は基本的にグリッド別・層位別にとり上げ、測量は予め設定した2 m四方のグリッドを基準とするやり方による。



第4図 水掛平遺跡グリッド配置図 (1:1,000)

V 土層

調査では、尾根の肩部で小豎穴を発見しているが、尾根上と南斜面では層序に違いがみられた。尾根上は水田造成の盛土の下層は比較的安定した層序であったが、南斜面は水田造成の削平が極めて著しかったうえに、暗渠排水を構築する際の掘り返しの攪乱が極めて著しく、安定した層序を示すところは少なかった。

南斜面に造成されている水田のなかには、表土（耕作土）を剥ぐと、その直下は岩層となり地下水がしみだす所や、旧い駿沢川と思われる幅10m程の落ち込みが確認されるなど、住居等が構築できる状態でない個所の方が多いみられた。

本遺跡の層序は地点によって違いがみられたが、参考までに観察結果をおおまかに記しておきたい。

第Ⅰ層 黒色土層 水田の耕作土で15~23cm。

第Ⅱ層 ローム細粒包含黄褐色土層 水田の床土（ねり込み）で6~17cm。

第Ⅲ層 ローム細粒包含黒褐色土層 尾根上だけにみられた12~31cm。

第Ⅳ層 ローム・礫包含黒褐色土層 水田の盛土でその色調は様々で26~110cm。

第Ⅴ層 矣包含黑色土層 第Ⅳ層より礫は少なくなる25~40cm。

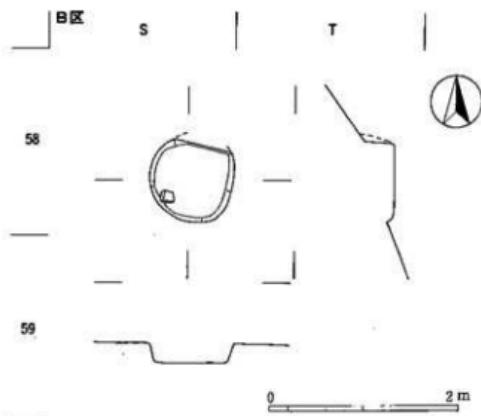
VI 遺構と遺物

調査の結果、時期不詳の小豎穴1基。縄文時代の土器片と石器、中世の内耳土器と思われる小破片を発見したにすぎないが、若干の説明を加えてみたい。なお、暗渠排水については、構築した時期が昭和とのことであったため、調査では構築方法が理解できる写真を撮影するにとどめた。

1 遺構

(1) 小豎穴1 (第5
図、写真②)

尾根の肩部にあたるBS-58グリッドで検出調査した。埋土は黄



第5図 水掛平遺跡小豎穴1実測図 (1:60)



第6図 水掛平遺跡構外出土、土器拓影・石器実測図

(1~4=1:2、5~8=2:3、9=1:3)

褐色土の自然埋没で、検出面で縁 1 点を発見している。平面形は径90cmの不正円形で、底面は平らで壁の立ち上りはなだらかで、その壁高は北で30cm、南で7cmを計る。

遺物の発見は皆無で、帰属時期および性格などは一切不明である。

2 遺 物

(1) 縄文時代の遺物 (第6図)

土 器

土器は小破片ばかり 4 点を図示した。第6図 1 と 3 は口縁部破片で、2 は縄文が施された腹部破片である。4 は注口土器の注口部破片で、後期初頭に帰属するものであろう。

石 器

石器は 5 点を図示した。第6図 5 ~ 7 は黒曜石製の石錐で、5 と 6 はそれぞれ脚を欠損している。8 は黒曜石の石錐であり、9 は輝石安山岩製の凹石で一般的に見られるものである。このほかに図示していないが、欠損部の多い黒曜石製の石錐 1 点、黒曜石の剥片 55 点がある。

(2) 中世の遺物

土 器

小破片で図示することはできなかったが、胎土・整形および焼成からみて内耳土器と思われるものが 2 点ある。

VII ま と め

縄文時代

縄文時代の遺構発見を期待したが、時期不詳の小竪穴 1 基を発見しただけである。遺物は土器・石器とも少なく、本遺跡の性格を述べることはできないが、黒曜石の剥片 55 点の発見は、本遺跡が単に遺物の散布地と考えるよりは、調査地点近くに住居址が埋没していることを考えることができるものであろう。いずれにせよ、遺跡の外縁部の様子の一端を窺うことができたといえよう。

中 世

調査地区がいわゆる御射山道に接している上に、その路傍には「駿の宮」が鎮座し、湧水がみられることから、諏訪神社上社の御射山祭に関係する資料の発見を期待した。しかし、内耳土器と思われる小破片を 2 点発見したが、それも今一つ決め手に欠けるものである。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。



遺跡遠景
(南東から)



小竪穴 1
(北から)



祓の宮 石祠
(東から)

引用参考文献

- 1974 07 諏訪清陵高等学校地歴部考古班「原村の考古学的調査 上」(『土』8)
- 1980 03 長野県教育委員会「昭和54年度 八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書」
- 1983 12 五味喜美重「菖蒲沢新田史」
- 1985 07 原村役場「原村誌 上巻」
- 1996 03 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財小報16 平成7年度県営整備事業原村西部地区内の発掘調査終了報告書 水掛平遺跡』

水掛平遺跡発掘調査団名簿

團長 大館 宏 (原村教育委員会教育長)

調査担当者 平出 一治

調査員 平林とし美

調査参加者 発掘作業

平成7年度	中村きみゑ	清水としみ	鎌倉きふみ	日達今朝江
	津金喜美子			
平成8年度	清水 正進	小池 英男	小松 弘	坂本ちづる
	宮坂とし子	五味八代江	清水 太助	西沢 寛人
	中村きみゑ	小林 ミサ	清水としみ	長林ときわ
	小林 多美	林 史子	津金喜美子	進藤 郁代
整理作業	津金喜美子	進藤 郁代 (順不同)		

事務局 原村教育委員会事務局

平成7年度	平林今朝二 (教育次長)	大口美代子 (庶務係長)
-------	--------------	--------------

宮坂 道彦 (主任)	伊藤 佳江	平出 一治
------------	-------	-------

平林とし美	石川 美樹
-------	-------

平成8年度	中村 正美 (教育次長)	大口美代子 (庶務係長)
-------	--------------	--------------

伊藤 佳江	平出 一治	平林とし美	石川 美樹
-------	-------	-------	-------

澤谷 昌英

報告書抄録

ふりがな	みずかけだいらいせき						
書名	水掛平遺跡						
副書名	平成7・8年度県営圃場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	原村の埋蔵文化財						
シリーズ番号	41						
編著者名	平出一治 平林とし美						
編集機関	原村教育委員会						
所在地	〒391-01 長野県諏訪郡原村6549番地1 Tel 0266-79-2111						
発行年月日	西暦 1997年03月						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村:遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
水掛平	長野県諏訪郡 原村菖蒲沢	3637	52 35度 57分 05秒	138度 12分 42秒	19951205 ~ 19960606	2,948	平成7・8年 度県営圃場整 備事業原村西 部地区
所収遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物	特記事項		
水掛平	包蔵地	縄文時代 中期不詳	小堅穴 1基	後期土器破片 石鐵 石錐 凹石 黒 曜石剝片 内耳土器破片			

原村の埋蔵文化財41

水掛平遺跡

平成7・8年度照管場整備事業原村
西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書

発行日 平成 9年 3月

発行 原村教育委員会
長野県諏訪郡原村

印 刷 もえぎ企画書籍
長野県岡谷市御倉町2-21
TEL 0266-22-4892

